

第4章

実践編【高等学校】

高等学校 性教育に関する主な学習内容

		第1学年	第2学年	第3学年
生命尊重			現代の諸課題と倫理 (公民・倫理) (1) 自然や科学技術に関わる諸問題と倫理	選択科目
		日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康管理 (特別活動・ホームルーム活動)		
生物的側面	現代社会と健康 (保健体育・科目保健) イ 現代の感染症とその予防 事例1 P.94			生殖と発生 (理科・生物)
	生涯を通じる健康 (保健体育・科目保健) ア 生涯の各段階における健康 事例3 P.98			
	現代社会と健康 (保健体育・科目保健) 才 精神疾患の予防と回復			
	生涯を通じる健康 (保健体育・科目保健) ア 生涯の各段階における健康 事例2 P.96			
心理的側面	人の一生涯と家族・家庭及び福祉 (家庭・家庭基礎) (2) 青年期の自立と家族・家庭			
	人の一生涯と家族・家庭 (家庭・家庭総合) (2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会			
	公共の扉 (公民・公共) 公共な空間における人間としての在り方生き方			
	適応と成長及び健康安全 (ア 青年期の悩みや課題とその解決) (特別活動・ホームルーム活動)			
社会的側面	生涯を通じる健康 (保健体育・科目保健) イ 生涯の各段階における健康 事例4 P.100			
	人の一生涯と家族・家庭及び福祉 (家庭・家庭基礎) (2) 青年期の自立と家族・家庭 事例5 P.102			
	衣食住の生活の自立と設計 (家庭・家庭基礎) 持続可能な消費生活・環境			
	持続可能な消費生活・環境 (家庭・家庭総合) (1) 生活における経済の計画			
	人の一生涯と家族・家庭 (家庭・家庭総合) (1) 生涯の生活設計			
	公共の扉 (公民・公共) 公共な空間における人間としての在り方生き方			
	現代の諸課題と倫理 (公民・倫理) (2) 社会と文化に関わる諸課題と倫理			
情報I (社会と情報) (1) 情報社会の問題解決 事例6 P.104			選択科目	
日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康管理 (特別活動・ホームルーム活動) 事例7 P.106				

指導事例 1 性感染症・エイズとその予防

対象：第1学年

教科・領域等：保健体育科

1 教育課程上の位置付け

第1～2学年 保健体育科・保健「現代社会と健康」

(1) 現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 現代社会と健康について理解を深めること。

(イ) 現代の感染症とその予防

感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること。

イ 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。

2 単元設定の理由

思春期後半に当たる高校生期は、性への関心や欲求が高まる時期でもある。性行動についてどう考え、どう行動するかは欠かせない内容である。性感染症の罹患について、正しい知識を身に付け、適切な意思決定や行動選択のための能力や態度を身に付けることができるよう、本単元を設定した。

3 単元計画（4時間扱い）

時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1	・感染症の発生や流行について、理解する。	・時代や地域によって、発生や流行に違いがあることを、資料から分析し表現する。	・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解している。
2	・感染症予防の原則や、社会的対策と個人の取組について理解する。	・感染症の予防について社会的な対策と個人の対策について考え、理解する。	・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現している。
3 本時	・我が国の性感染症や HIV 感染症の発生動向について理解を深めるとともに、予防や治療、社会的対策と個人の取組について理解する。	・HIV 感染症の原因や予防のための個人の行動選択や社会の対策について考え、理解する。	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとしている。
4			

4 本時の指導（全4時間中の3時間目）

(1) 指導のねらい

・性感染症やHIV感染者の若年層の増加傾向について理解し、性感染症が引き起こす健康影響について正しく理解する。また、個人や社会の取組について理解させ、予防することのできる知識を身に付けさせる。

(2) 学習方法

・ワークシートを活用し、教員の問いに対して個人の考えをまとめ、グループ活動で意見を出し合うなど学習活動を進めていく。発表し合うことで他のグループの意見を聞き、様々な考え方をもちたり、気付いたりする。

(3) 評価規準

・性感染症の原因や予防のための個人の行動選択や、社会の対策について理解する。
 ・事例について課題の発見及び解決に向けた適切な方法を選択し、ワークシートに記入したり、グループで話し合ったりしている。

(4) 指導上の配慮事項

- ・学校の実態に応じてグループを作り、活発な意見交換ができるようにする。
- ・過度な発言や不適切な発言につながらないよう協議する内容を明確にする。

(5) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 自分が知っている性感染症を発表し、資料から何種類あるかを知る。	○性感染症の種類について選択肢（4、10、15、20、20以上等）を挙げ、予想させる。 ○性感染症とは、性的接触によって感染する病気の総称であり、現在20種類以上の病気があることを伝える。	
展開	2 タイトルを伏せたグラフが「梅毒報告数」であることを知る。 ・増加傾向にある理由を考え、ワークシートに記入する。 ・グループでの話し合い活動により、自分と周囲の考えの共通点や相違点に気付く。	○梅毒が、性行為によって感染することが多いこと、再流行していることを伝える。 ○机間指導をしながら自分の考えがワークシートに記入されているかを確認する。 ○グループでの意見交換が活発に行えるよう促す。 ○グループから出た意見を拾いながら、増加の理由を説明し理解させる。 ○梅毒をはじめとする性感染症による健康影響について理解させる。	●性感染症の原因や予防のための個人の行動選択や、社会の対策について理解している。
	3 グループで知っている性感染症を出し合い、ワークシートに書く。	○20種類以上あることを再度確認し、ワークシートに記入するよう促す。 ○性器クラミジア感染症が若年層で増加傾向であることを伝える。 ○HIV感染も性感染症の一つであることを説明する。 ○性感染症が引き起こす健康影響について理解させる。	
	性感染症を予防するための方法と広めないための対策を考えてみよう。		
	4 予防や対策について理解する。 ・自分で考えた予防法及び対策をワークシートに記入する。 ・グループでの話し合い活動により、自分と周囲の考えの共通点や相違点に気付く。	○グループでの意見交換が活発に行えるよう促す。 ○グループごとに発表させ、個人の対策と社会の対策に分け黒板に書き出す。 ○個人、社会ともに、適切な対応が必要であることを理解させる。 ○感染拡大の一因として、感染しても自覚症状の出ないものもあること、恥ずかしさから受診が遅れてしまうことがあることを説明し、早期発見・早期治療の大切さを伝える。	●事例について課題の発見及び解決に向けた適切な方法を選択し、ワークシートに記入したり、グループで話し合ったりしている。
まとめ	5 本時の振り返りをワークシートに記入する。	○ワークシートに記入できているか確認し、回収する。	

指導のポイント

導入の工夫

- ・ICT機材を活用し、発問や選択肢を表示する。

使用する教材等

- ・厚生労働省HP性感染症報告数から「性感染症報告数の年次推移」「性別にみた性感染症(STD)報告数の年次推移」「年齢(5歳階級)別にみた性感染症(STD)報告数の年次推移」を提示する。
- ・国立感染症疫学センター「感染症発生動向調査事業年報」より梅毒の感染者数についてグラフを作成し、提示する。
- ・性感染症疫学総合サイト「東京都性感染症ナビ、及び「webで学ぶ梅毒」、啓発動画「梅毒流行しています」、梅毒予防啓発チラシ(東京都福祉保健局)を活用する。

個人差への配慮、個別指導について

- ・生徒の実態に応じ、性別・人数などに配慮したグループ設定やワークシートについて工夫する。

指導事例 2 性意識と性行動の選択

対象：第2学年

教科・領域等：保健体育科

1 教育課程上の位置付け

第1～2学年 保健体育科・保健「生涯を通じる健康」

(3) 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生涯を通じる健康について理解を深めること。

(ア)生涯の各段階における健康

生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること。

イ 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。

2 単元設定の理由

思春期後半に当たる高校生期は、性への関心や欲求が高まるとともに異性への関心が高まる時期でもある。ただ、それらには個人差や男女差があること、性行動には責任が生じることを理解させ、性に関する正しい知識を身に付け、誤った情報に惑わされず、適切な意思決定や責任ある行動選択のための能力や態度を身に付けるため本単元を設定した。

3 単元計画（5時間扱い）

時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1	・思春期の心身の発達や性的成熟に伴う様々な変化や健康課題について理解する。	・思春期の心身の発達と変化と健康課題について身体、心、行動などの側面から考える。	<ul style="list-style-type: none"> 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる。
2 本時	・思春期における変化に対応して、自分の行動への責任感や異性に対する理解、尊重が必要であること、性に関する情報等への適切な対処が必要であることを理解する。	・性意識の男女差を理解し、異性を尊重する態度が必要であること、性に関する正しい情報を選択して行動する必要性を考える。	
3	・心身の発達や健康の保持増進の観点から結婚生活を理解し、健康的な結婚生活には、自他の責任感、人間関係、様々な支援が必要であることを理解する。	・健康な結婚生活を送るには、自分や家族の健康や精神面が影響すること、周囲との人間関係や支援が重要であることを理解する。	
4	・受精、妊娠、出産に伴う健康課題を理解するとともに、健康課題には様々な要素が関わること、母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 受精、妊娠、出産の過程と母子の健康問題を理解する。 様々な支援や公的サービスを調べ、課題や改善策を考え発表する。 	
5	・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響を理解し、それに伴う適切な意志決定と行動選択をする。	<ul style="list-style-type: none"> 家族計画の意義や方法を理解し、正しい避妊方法を説明する。 人工妊娠中絶が女性の心身に与える影響を理解し、それを避けるための判断や行動を考える。 	

4 本時の指導（全5時間中の2時間目）

(1) 指導のねらい

・異性への関心と性的関心についての男女の特性を知り、性意識への男女差に伴うセクシュアル・ハラスメントなどの問題やそれらを防止するための留意点を理解する。また、高校生の主たる性情報の特性や、それらが性行動に与える影響について理解し、性に関して適切な意思決定や行動選択をする。

(2) 学習方法

・グループ内で意見交換を行い、様々な考え方をもちたり、新たに気付いたりする。

(3) 評価規準

・グループでの話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
・習得した知識を基に、相手を尊重した適切な意思決定・行動選択への留意点を整理している。

(4) 指導上の配慮事項

- ・グループ設定は、生徒の実態に応じて同性同士や異性と混合にするなど柔軟に対応する。
- ・度が過ぎた発言や個人のプライバシーに配慮を欠く発言、不適切な発言につながらないように、協議する内容を明確に示す。

(5) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 性差やそれに伴う考え方の違いを知る。 ・「異性の優れているところ（長所など）」「異性の理解できないところ（短所など）」について自分の考えをワークシートに記入し、5, 6人のグループで発表し合う。	○数名の生徒に発表させ、その意見をもとに、男女には性差があり、身体的な差は比較的分かりやすいが、見えにくい心やその働きにも男女差があることを理解させる。	
展開	2 他人の言動は人によって感じ方が違うことと、男女間のトラブルを防ぐには自分の欲求のまま行動せず相手の気持ちを尊重して接することが大切であることを理解する。 ・「セクシュアル・ハラスメント」と思うことについてワークシートに記入してグループ内で発表し合い、意見交換する。	○セクシュアル・ハラスメントと率直に自分が感じることを記入するよう伝える。 ○「セクシュアル・ハラスメント」「ストーカー」について定義を用いて解説する。 ○自分の言動を相手がどう受け取るかは性差や個人差があるということや、性意識の男女差を理解した上で相手への思いやりをもって接することが大切であることを説明する。	●グループでの話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
	3 資料「青少年の性行動」からどんな特徴があるか読み取る。 ・自分の考えをワークシートに記入し、グループ内で発表し合う。	○性行動の特徴を挙げさせ、安易に性行動を選択することで性感染症や望まない妊娠をするリスクがあることを説明する。 ○その上で、「性行動を選択するときに何が大切か？」と問い掛け、生徒の対話的活動を活性化させる。	
性行動を選択する際に、どのような点に配慮する必要があるだろう。			
	4 本時の学習内容を踏まえて、現在の自分自身に引き寄せて考え、ワークシートに記入する。	○性に関わる意思決定・行動選択においては相手の人生や健康へ大きな影響を与えるため、相手を尊重した行動をとることが必要であると伝える。	●習得した知識を基に、相手を尊重した適切な意思決定・行動選択への留意点を整理している。
まとめ	5 本時の振り返りをワークシートに記入する。	○ワークシートに記入できているか確認する。	

指導のポイント

導入の工夫
・意見を発表させることで、感じ方は人によって異なることに気付かせるようにする。

使用する教材等
・日本性教育協会「青少年の性行動」（2011年）を提示する。

個人差への配慮、個別指導について
・人によって、考えや意見は異なってもよいことを伝える。
・性別、人数に配慮したグループ設定をする。

指導事例3 妊娠・出産と健康

対象：第2学年

教科・領域等：保健体育科

1 教育課程上の位置付け

第1～2学年 保健体育科・保健「生涯を通じる健康」

- (3) 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 生涯を通じる健康について理解を深めること。
- (ア)生涯の各段階における健康
生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること。
- イ 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。

2 単元設定の理由

妊娠・出産は、新しい命が母体で育ち、誕生するという一連の過程であり、母子の健康について配慮すべきことが多い。そのため、正しい知識を身に付け、適切な意志決定や行動選択のための能力や態度を醸成することができるよう、本単元を設定した。

3 単元計画（5時間扱い）

時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1	・思春期の心身の発達や性的成熟に伴う様々な変化や健康課題について理解する。	・思春期の心身の発達と変化と健康課題について身体、心、行動などの側面から考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。 ・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現しようとしている。 ・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとしている。
2	・思春期における変化に対応して、自分の行動への責任感や異性に対する理解、尊重が必要であること、性に関する情報等への適切な対処が必要であることを理解する。	・性意識の男女差を理解し、異性を尊重する態度が必要であること、性に関する正しい情報を選択して行動する必要性を考える。	
3	・心身の発達や健康の保持増進の観点から結婚生活を理解し、健康的な結婚生活には、自他の責任感、人間関係、様々な支援が必要であることを理解する。	・健康な結婚生活を送るには、自分や家族の健康や精神面が影響すること、周囲との人間関係や支援が重要であることを理解する。	
4 本時	・受精、妊娠、出産に伴う健康課題を理解するとともに、健康課題には様々な要素が関わること、母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・受精、妊娠、出産の過程と母子の健康問題を理解する。 ・様々な支援や公的サービスを調べ、課題や改善策を考え発表する。 	
5	・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響を理解し、それに伴う適切な意志決定と行動選択をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族計画の意義や方法を理解し、正しい避妊方法を説明する。 ・人工妊娠中絶が女性の心身に与える影響を理解し、それを避けるための判断や行動を考える。 	

4 本時の指導（全5時間中の4時間目）

(1) 指導のねらい

- ・受精、妊娠、出産の一連の過程を理解するとともに、胎児や母体の心身の健康問題とその予防や健康管理とそれのための支援について理解できるようにする。
- ・妊娠中や出産後の女性が健康に生活するためには、本人が心身の状態や日常生活へ配慮すると同時に、周囲の人々の支援や配慮、公的サービスの活用が必要であることを理解できるようにする。

(2) 学習方法

- ・ワークシートを活用し、個人の考えをまとめるとともに、ペアやグループでの話し合い、発表などの学習活動を展開する。その際、話し合いの内容や他グループの発表を踏まえて、課題を把握し、課題の解決に向けた新しい考え方や気づきをまとめる。

(3) 評価規準

- ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題を把握し、それらには年齢や生活習慣などが関わることに理解している。
- ・習得した知識を基に妊娠・出産に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理し、自他や社会の課題を発見して解決に向けた対策を考え発表している。

(4) 指導上の配慮事項

- ・生徒の実態に応じて、活発な意見交換ができるよう、性別・人数などに配慮したグループの設定や、ワークシートについて工夫する。
- ・過度な発言や不適切な発言につながることを注意する。

(5) 展開

段階	学習内容、活動	教師の支援	評価規準
導入	1 妊娠の成立と母体の環境について理解する。	○いくつかのタイミングを挙げて選択できるようにする。 ○母体に現れる変化が妊娠のサインにつながることを理解させる。	
展開	2 妊娠の経過と胎児の成長について理解する。 ・現在の自分と胎児や新生児の体格(平均)を比較し、ワークシートに記入する。	○新生児の出生時平均身長、体重と全国、東京都の高校生、本校生徒の身長、体重の平均を把握し、提示する。	●受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題を把握し、それらには年齢や生活習慣などが関わることについて理解している。
	3 妊娠中、出産後に健康な生活を送るための行動を考える。 ・注意すべき生活習慣や行動をペアで話し合い、ワークシートに記入する。	○妊娠から出産までの期間とその期間の胎児の成長について説明し、妊娠中の生活習慣や行動に注意する必要性を理解できるようにする。 ○若年妊娠にはリスクがあることについて触れる。	
	4 妊娠中や出産後に健康的な生活を送るための様々な支援や公的サービスについて理解する。 ・自分が住む自治体の相談窓口や医療機関などを調べてワークシートに記入し、ペアで発表し合う。	○妊娠、出産に関わる公的機関やサイトを例として提示し、妊娠が確認された際や出産後の対応を理解させる。 ○自分が住む(将来住みたい)自治体の政策や対応を調べさせ、妊娠、出産に関わる健康管理をできるようにする。	
妊婦や出産後の女性に社会としてできることを考えよう。			
	5 妊娠や出産に伴う社会的課題について理解し、改善方法を考える。 ・妊婦や出産後の女性への配慮が不足していることの課題と、その解決方法をグループで話し合い、発表する。	○話し合い活動が活発に行われるように、身近な環境における課題や課題解決に向けた取組の実例を提示し、今後の社会をより良くするための対応や行動を自ら実践できるようにする。 ○獲得した知識を基に、課題や解決策を考えられるように指導する。	●習得した知識を基に妊娠・出産に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理し、自他や社会の課題を発見して解決に向けた対策を考え発表している。
まとめ	6 本時の内容を振り返り、ワークシートに記入する。 7 次時の内容を確認し、本時とのつながりを理解する。	○記入できていない生徒には、机間指導等で本時の振り返りを促す。 ○本時の内容と次時の内容のつながりについて説明し、次時まで個人の見解をまとめてくるよう指示する。	

指導のポイント

展開の工夫

- ・ICT機器などを活用し、図やグラフなどを用いながら説明する。

使用する教材

- ・厚生労働省、東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査報告書等を参考に、身長、体重の変化をグラフに表し、ICT機器で提示する。
- ・母子に対する公的サービス【区市町村など各自治体HP、東京都福祉保健局(妊娠相談ホットライン)、厚生労働省(全国の女性健康支援センター一覧)、公益財団法人東京都福祉保健財団HP、一般社団法人全国妊娠SOSネットワークHPなどから抜粋】をICT機器にて例示する。

指導事例 4 家族計画と人工妊娠中絶

対象：第2学年

教科・領域等：保健体育科

1 教育課程上の位置付け

第1～2学年 保健体育科・保健「生涯を通じる健康」

- (3) 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 生涯を通じる健康について理解を深めること。
- (ア) 生涯の各段階における健康
生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること。
- イ 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。

2 単元設定の理由

思春期後半にあたる高校生期は、性への関心や欲求が高まるとともに異性への関心が高まる時期でもある。それゆえに、望まない妊娠をした場合のリスクや女性の心身に与える影響を学び、家族計画を実践するうえで必要な避妊法を正しく知り、性交にとって不可避の課題である望まない妊娠を避けるための適切な意思決定や責任ある行動選択のための能力や態度を身に付けるため、本単元を設定した。

3 単元計画（5時間扱い）

時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1	・思春期の心身の発達や性的成熟に伴う様々な変化や健康課題について理解する。	・思春期の心身の発達と変化と健康課題について身体、心、行動などの側面から考える。	<ul style="list-style-type: none"> 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとしている。
2	・思春期における変化に対応して、自分の行動への責任感や異性に対する理解、尊重が必要であること、性に関する情報等への適切な対処が必要であることを理解する。	・性意識の男女差を理解し、異性を尊重する態度が必要であること、性に関する正しい情報を選択して行動する必要性を考える。	
3	・心身の発達や健康の保持増進の観点から結婚生活を理解し、健康的な結婚生活には、自他の責任感、人間関係、様々な支援が必要であることを理解する。	・健康な結婚生活を送るには、自分や家族の健康や精神面が影響すること、周囲との人間関係や支援が重要であることを理解する。	
4	・受精、妊娠、出産に伴う健康課題を理解するとともに、健康課題には様々な要素が関わること、母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることを理解する。	・受精、妊娠、出産の過程と母子の健康問題を理解する。 ・様々な支援や公的サービスを調べ、課題や改善策を考え発表する。	
5 本時	・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響を理解し、それに伴う適切な意志決定と行動選択をする。	・家族計画の意義や方法を理解し、正しい避妊方法を説明する。 ・人工妊娠中絶が女性の心身に与える影響を理解し、それを避けるための判断や行動を考える。	

4 本時の指導（全5時間中の5時間目）

(1) 指導のねらい

- ・家族計画の意義を理解し、妊娠を望まないときには避妊を実施することやコンドームやピルなどの正しい避妊法について理解する。人工妊娠中絶が女性の心身に与える影響を理解し、自分の行動に責任をもち、望まない妊娠や人工妊娠中絶を避けるための判断と正しい行動選択ができるようになる。

(2) 学習方法

- ・グループ内で意見交換を行い、自分の考えを他者に伝え合い、様々な考えをもったり、新たに気付いたりする。

(3) 評価規準

- ・家族計画の意義について理解し、正しい避妊法とその選択の際の留意点について説明している。
- ・学習した知識を活用して、望まない妊娠を避けるために自分が取るべき適切な行動を記述している。

(4) 指導上の配慮事項

- ・結婚や出産に関しては個人によって考え方が多様であることを尊重し、子供を産むか産まないかの議論にならないよう留意する。

(5) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準	指導のポイント
導入	1 結婚や出産は人によって考え方が違うことに気付く。 ・発問①、②の順にペアで互いの考えを発表し合い、ライフプランや不妊・妊娠と年齢の関係等について考える。 2 家族計画の意義と、子供を望まないときには避妊が必要だということを理解する。	○「①将来子供は欲しい？欲しい場合は何人ぐらい？何歳の時に？②現在、妊娠をしたとしたら子供を産みたいと思うか？また実際に産めると思うか？」と発問する。 ○理由を話したくない生徒に配慮し、②の意見交換後に発表させ、なぜそう思うのか理由を答えさせる。 ○家族計画の意義について説明する。		指導のポイント 導入の工夫 ・意見を発表させることで、感じ方は人によって異なることを気付かせるようにする。
展開	3 「年齢階級別にみた人工妊娠中絶実施率(平成 28 年度)」のグラフから、10代の人工妊娠中絶の実態を知る。 4 人工妊娠中絶の「やむを得ない理由」について理解する。 ・人工妊娠中絶が女性の心身に与える影響について理解し、家族計画と確実な避妊が大切であることを理解する。 5 避妊法の特徴について知る。 6 どの避妊法を選択すべきか考える。 ・「国連 2013 主要国の避妊法」のグラフを分析し、諸外国と日本との避妊に対する考え方の違いに気付く。 ・避妊法の選択にはパートナー間の相互理解が大切だと知る。	○人工妊娠中絶の件数は全体としては減少傾向にあるが、若年層では依然として高いことを伝える。 ○「母体保護法」について説明し、人工妊娠中絶は女性の心身に非常に大きな負担を与えることを説明する。 ○コンドームと低用量ピルの特徴について説明する。 ○「グラフから読み取れることは何か？」と発問し、避妊に対する各国での考え方の違いに気付かせる。 ○コンドームは男性主体、低用量ピルは女性主体の避妊法であり、どの避妊法を選ぶかはパートナー間の相互理解による選択が大切だと気付かせる。	●家族計画の意義について理解し、正しい避妊法とその選択の際の留意点について説明している。	使用する教材等 ・文部科学省「健康な生活を送るために(高校生用)(平成30年度版)」を提示する。 ・厚生労働省「年齢階級別にみた人工妊娠中絶実施率(平成 28 年度)」を提示する。 ・国連 2013「主要国の避妊法」を提示する。
	望まない妊娠を避けるために取るべき行動はなんだろう。			
	7 本時に学習した知識を活用して自分に置き換えて考え、ペアで話し合い、その結果を発表する。	○望まない妊娠の結果、起こり得る問題の視点からも考えさせる。 ○あくまでも避妊は一つの手段であり、「性行動しない」という行動選択もあると補足説明する。	●学習した知識を活用して、望まない妊娠を避けるために自分が取るべき適切な行動を記述している。	個人差への配慮、個別指導について ・人によって、考えや意見は異なってよいことを伝える。 ・性別、人数に配慮したグループ設定をする。
まとめ	8 本時の振り返りをワークシートに記入する。	○ワークシートに記入できているか確認する。		

指導事例5 自分らしく生きる・共に生きる

対象：第1学年

教科・領域等：家庭科

1 教育課程上の位置付け

第1～2学年 家庭科 家庭基礎「人の一生と家族・家庭及び福祉」

(2) 青年期の自立と家族・家庭

- ア 生涯発達の見点で青年期の課題を理解するとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家庭と社会の関わりについて理解を深めること。
- イ 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察すること。

2 単元設定の理由

様々な生活課題に対応して適切な自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することの重要性を考察できるようにする。また、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことについて、固定的な性別役割分業意識を見直し、相互の尊重と信頼関係の基に関係を築くこと、共に協力して家庭を作ることの意義や重要性を考察できるようにするため、本単元を設定した。

3 単元計画（4時間扱い）

時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1 2	・男女の平等、相互の協力などについて理解を深める。	・日本の現状や家庭を取り巻く制度について知る。 ・事前アンケートを行う。	・固定的な性別役割分業意識の見直し、男女の平等、相互の協力などについて考え、青年期をどのように生きるかについて理解を深めている。
3 本時	・自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することの重要性について考察する。	・「結婚」「出産」「仕事」日本の現状や制度を踏まえ、自分らしい生き方を考える。	・家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や、家庭と社会の関わりについて理解している。 ・自分の過去現在未来年表を作成し、自分らしい生き方を考えている。
4		・自分の過去現在未来年表を作成する。	

4 本時の指導（全4時間中の第3時間目）

(1) 指導のねらい

- ・「結婚」「出産」「仕事」について、日本の現状や制度について知る。自分らしく生きるために、いろいろな人の生き方を尊重し共に生きることの大切さを知る。

(2) 学習方法

- ・グループ内で意見交換を行わせ、自分の考えを他者に伝え合い、様々な考えをもったり、新たに気付いたりする。

(3) 評価規準

- ・自分らしく生きることについて考えている。
- ・いろいろな人の生き方を尊重し、共に生きることが大切だと認識している。

(4) 指導上の配慮事項

- ・アンケートを実施する際には、人生観や結婚観など様々な考えがあつてよいことを伝える。
- ・いろいろな意見を共有できるように、グループ分けに配慮する。
- ・考察・感想が差別的発言につながらないように、協議する内容を明確に提示する。

- ・人権教育プログラム（学校教育編）（東京都教育委員会 平成31年3月）のp83からの事例やp163からの参考資料を参照し、性的指向・性自認に係る児童・生徒にきめ細かくに対応する。

(5) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 グループに分かれる。	○前時の事前アンケートを基に、生徒をグループに分けておく。	
展開	2 自分の将来～「結婚」、「出産」、「仕事」について考える。 ・グループで一人一人発表する。	○周りに相談せず、自分の考えをまとめ、発表させる。	●自分らしく生きることについて考えている。
	3 発表を聞いて、気付いたことや考えたことをグループでまとめる。 ・グループで気付いたことを発表する。	○グループごとに考えをまとめ、発表させる。 ○様々な意見があることに気付かせる。	
	今の日本は、自分らしい生き方が叶うだろうか。		
	4 「性・年齢別労働力率」「女性の労働力率の国際比較」、「男女雇用機会均等法」「育児休業制度」から、日本の制度と自分の生き方について考える。	○前時の授業で取り上げた「女性の年齢別労働力率」や「男女雇用機会均等法」、「育児休業制度」の制度について触れ、自分らしい生き方について考えさせる。 ○「結婚」「出産」「仕事」の実例を紹介する。	
まとめ	5 自分らしく生きることについて考える。 ・考察・感想を記入する。	○自分らしく生きるためには、多様な生き方を尊重し、共に生きることが大切であることを伝える。	●いろいろな人の生き方を尊重し、共に生きることが大切だと認識している。

指導のポイント

使用する教材
・事前アンケート例

私は将来結婚（したい・したくない）です。その理由は（ ）だからです。

私は将来子供が（欲しい・欲しくない）です。その理由は（ ）だからです。

私は将来結婚や出産をしたら仕事を（続けたい・女性に続けて欲しい・辞めたい・辞めて欲しい）です。その理由は（ ）だからです。

- ・「性・年齢別労働力率」総務省労働力調査（2005年）を提示する。
- ・「女性の労働力率の国際比較」総務省世界の統計（2016年）を提示する。

個人差への配慮、個別指導について

- ・事前アンケートに答えたくない生徒に配慮し、事前アンケートを実施して、グループ分け等に活用する。
- ・人の考え方は多様であることと、相手を尊重することの大切さを伝える。

指導事例6

SNS利用によって生じるトラブル

対象：第1学年

教科・領域等：情報科

1 教育課程上の位置付け

第1～3学年 情報科・情報I 「情報社会の問題解決」

情報と情報技術を活用した問題の発見・解決の方法に着目し、情報社会の問題を発見・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付けること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えること。

2 単元設定の理由

情報には「形がない」、「消えない」、「簡単に複製できる」、「容易に伝播する」などの特性や、表現、伝達、記録などに使われるメディアの特性の理解が求められる。高校生によるSNS等による情報発信等の問題点も明らかになっている。そのことについて対面でのコミュニケーションとの対比から検討し、SNSの適切な利用について検討をするため、本単元を設定した。

3 単元計画（3時間扱い）

時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1	・ 情報とメディアの特性を踏まえて、情報の科学的な見方・考え方を身に付ける。	・ 情報の「形がない」、「消えない」、「簡単に複製できる」、「容易に伝播する」などの特性を理解する。	・ 情報やメディアの特性を踏まえて、適切な利用・判断をしている。
2 本時	・ SNSの特性を調べ、その特性から起こる問題を理解し、その解決方法を検討する。	・ SNSでのトラブル事例の解決を検討するとともに、適切な利用の在り方について理解する。	・ 情報技術が人や社会に果たす役割と影響、情報モラルについて理解している。
3	・ 情報と情報技術を活用した自らの問題解決が社会に貢献できる可能性を理解する。	・ 情報と情報技術を活用した問題解決に必要な知識及び技能を身に付ける。	・ 情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。

4 本時の指導（全3時間中の第2時間目）

(1) 指導のねらい

・ SNSでのトラブルを回避するために、SNSの特性から起こるトラブルの実例について生徒間の議論をし、その解決策を検討させる。

(2) 学習方法

・ SNSでのトラブルに対する自身の考えをワークシートにまとめ、それをグループで議論し、発表する。

(3) 評価規準

・ 望ましいSNSの利用を考え、判断している。

・ SNSの特徴と、その利用からトラブルが生じたときに関係機関を活用できることを理解している。

(4) 指導上の配慮事項

・ 情報やメディア、SNSの利用について実際にトラブルに巻き込まれた経験や、現在悩みをもつ生徒がいる可能性があり、その配慮をする。また、それらの生徒に対して個別の対応をする。

・ 実際にトラブルがある場合には、周囲の大人（保護者や教員等）を頼ることが重要であることや他の機関に相談することを伝える。

例：東京都こたエール 電話 0120-1-78302（都民安全推進本部）

(5) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 高校生がよく利用する SNS と自身の利用を比較する。 2 自分が利用している SNS の使い分けについて考える。	○事前に、利用している SNS に対するアンケートを取り、その結果を示す。結果から利用の多い上位の SNS の利用方法を質問する。(Twitter：情報収集や趣味友だち交流等、LINE：実際の友だちと連絡等、Instagram：写真アップロード等)	
展開	SNS でのトラブルの解決策を班で検討し発表しよう		
	3 SNS 利用で生じるトラブルを知る。 ・悩みやトラブルの経験を記入する。ただし、書きたくない生徒は、他者の経験や、どのようなトラブルがあり得るかを検討する。 ・実際にあった事例を用い、その解決を検討する(記述したトラブルは自身の体験であるかどうかを伝える必要はない。) ・教員から紹介されたトラブル事例に対して、班単位で検討をして、発表する。	○ SNS について悩むことやトラブルをワークシートに記述させる。プライバシー配慮のため、書きたくない生徒には、どのようなトラブルが考えられるかを、記述するよう伝える(友達からの返事が遅い、勝手に自分の写真がアップされる等)。 ○実際にあった事例を用い、SNS でのトラブルの解決策を班で検討させる。4人程度の班を作り、解決方法を検討させる。考えた解決方法はワークシートに書かせ、発表させる。 ○ SNS トラブル事例を紹介する(以前交際していた人と一緒に写っている写真が相手の SNS にアップロードされたままである。相手はその SNS を利用していないのか、掲載されたままである等)。	●望ましい SNS の利用を考え、判断している。
まとめ	4 SNS の特徴の確認をし、SNS との付き合い方を検討する。 ・ SNS の一つである Twitter の特徴を検討し、それをワークシートにまとめる。 ・今後どのように SNS を利用すればよいかを検討する。 5 実際にトラブルとなったときの対処方法についてワークシートにまとめる。	○警察の資料によると、コミュニティサイト等で被害者数が多いのは Twitter である。なぜ Twitter がそうなりやすいのかを検討させる。(前時で学んだ、情報の「形がない」、「消えない」、「簡単に複製できる」、「容易に伝播する」などの特性を再度確認し、Twitter の特性と照らし合わせる。) ○ SNS とは今後どのように付き合いえばよいかを検討させる。 ○実際にトラブルとなったときには、周囲の大人や関係機関等に連絡することが良いことを伝える。	● SNS の特徴と、その利用からトラブルが生じたときに関係機関を活用できることを理解している。

指導のポイント

導入の工夫等

- ・ SNS 利用について、前時までに集計しておくか、アナライザなどを利用して、その場で集計する。

使用する教材等

- ・政府インターネットテレビ「自撮りが被害が増加！ SNS 上の出会いに要注意！！」を利用して、SNS でのトラブル事例を示す。
- ・「SNS 東京ノート 5 (高校生用)」(東京都教育委員会平成 30 年 3 月)、「気づいて！ SNS 出会いにひそむワナ (政府広報)」、「東京都こたエール (都民安全推進本部)」、「警察庁サイバー犯罪対策プロジェクト」(警視庁)等を参考にする。

個人差への配慮、個別指導について

- ・生徒が悩みやトラブルについて友達と話す場面では、自分のことを無理に話す必要はないことを伝える。

指導事例7 これからの人生とパートナー

対象：第1学年

教科・領域等：特別活動

1 教育課程上の位置付け 第1～3学年 特別活動（ホームルーム活動）

〔ホームルーム活動〕

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

エ 青年期の悩みや課題とその解決

心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとする。

オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立

節度ある健全な生活を送るなど現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

2 題材設定の理由

性に対する正しい知識を基盤に、身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し適切な行動がとれるようにすること、また、性的情報の氾濫する現代社会において、自己の行動に責任をもって生きることの大切さや、人間尊重の精神に基づく男女相互のより良い人間関係の在り方などを理解し、自他の人格を尊重した行動ができるようにすることが重要であるため、家庭科や保健体育科などの他教科の内容と関連を図り、本単元を設定した。

3 指導計画

時	ねらい	学習内容	評価規準
1 本時	・自己の行動に責任をもって生きることの大切さや、人間尊重の精神に基づく男女相互のよりよい人間関係の在り方などを理解する。	・性に関する正しい知識を基に、性行動が自分と相手の人生へ影響することがあることを理解する。	・心や体に関する正しい知識を基に、自分の人生や相手を尊重する態度の必要性について理解し、表現している。

4 本時の指導

(1) 指導のねらい

・性に対する正しい知識の理解の基に、適切な行動がとれるように指導することが重要である。日本における HIV 感染や性感染症、人工妊娠中絶等の現状について理解することで、自分の人生、相手を尊重する態度の育成を図る。

(2) 学習方法

・講義や意見交換の活動から、課題を把握する。ワークシートを活用し、課題の解決に向けた新しい考え方や気づきを今後の生活に生かす。

(3) 評価規準

・性感染症や妊娠など、性行動が自分と相手の人生へ影響することがあることを理解している。
・習得した知識を基にパートナーを思いやる行動について考え、将来設計について記述している。

(4) 指導上の配慮事項

・妊娠の経過や人工妊娠中絶などは教科で学習するため、内容の提示にとどめる。
・ホームルーム活動で取り上げることができない性的指向を含めた個人的な悩みや不安は、担任又は養護教諭に個別に相談するように伝える。

(5) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 自分に子供ができる場面を想像する。 ・考えたコメントを発表する。	○第一子誕生時の自分は何歳で、どういう立場かをワークシートに記入させる。	
展開	自分の子供が誕生するのは人生の中で大きな出来事 性行動はその始まりであることを知ろう		
	2 スライドを見て、 性感染症の種類と流行状況に注目する。	○性感染症報告数の推移をグラフ化し提示する。 ○冊子を配布し、梅毒の流行状況について知らせる。	●性感染症や妊娠など、性行動が自分と相手の人生へ影響することがあることを理解している。
	3 妊娠の経過と人工中絶、避妊方法について知る。	○最終月経を12月10日とし、妊娠に気が付いてから人工妊娠中絶可能な期間が非常に短いことを具体的に伝える。 ○100%避妊できる方法はないことを知らせる。	
4 パートナーと初めてのクリスマスをどう過ごすか考える。 ・4人程度のグループで意見交換し、発表する。	○大切に思うパートナーに自分の思いを伝える行動はどのようなかを考えさせる。		
まとめ	5 50歳の時の自分とパートナーについて想像する。 ・想像した内容をワークシートに記入する。	○ワークシートのパートナーの欄にも忘れず記入するように指示する。 ○自分の人生は、自分の行動で決まるだけでなく、パートナーの人生にも影響することに気付かせる。	●習得した知識を基にパートナーを思いやる行動について考え、将来設計について記述している。

指導のポイント

導入の工夫等

- ・我が子が誕生した時の様々な人のブログのコメントを紹介し生命誕生の素晴らしさを感じさせるとともに、30代半ばから妊娠しにくくなることを伝える。

使用する教材

- ・厚生労働省「性感染症報告数」（平成28年）、妊娠週数と人工妊娠中絶方法の対比表(教科書)を提示する。
- ・都民向け情報リーフレット（梅毒患者が増加してます！！）を使用する。

<ワークシート例>

自分	パートナー
誕生	
中学校入学	
30歳	
50歳	

個人差への配慮、個別指導について

- ・気分がすぐれない場合には、遠慮せず申し出るよう伝える。
- ・個人的な悩みや不安は養護教諭、スクールカウンセラーに相談するよう伝え、個別に対応する。

